

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171400765		
法人名	特定医療法人 富田病院		
事業所名	高齢者グループホーム あねもね あね棟		
所在地	北海道 函館市 日吉町4丁目7番83号		
自己評価作成日	令和5年1月10日	評価結果市町村受理日	令和5年3月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvsoyCd=0171400765-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご本人様がこれまで行ってこられた事が継続できるように、お手伝いをさせて頂いている。穏やかな生活の中にも役割や生きがいを感じて頂けるよう、職員一同心掛けています。昇降機付き浴槽への改修により、重度の方でも負担がなく安全に浴槽に浸かり心身ともにリラックスして頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「高齢者グループホーム あねもね」は、函館駅より車で20分程の距離に、開設して21年を迎える鉄骨平屋造りの2ユニットを有した建物で、18名の利用者が職員と馴染みの関係を築きながら、そして、家族とは強い絆で結ばれた尊厳ある生活を送っている。事業所周辺には同法人が運営する介護老人保健施設「ロイヤルヒルズ日吉」が併設され、側に「日吉サッカー場」や「シニアハウス」があり、渡り鳥が羽を休め野鳥やキジが遊ぶ、雑木林に囲まれた自然豊かな環境のもとにあり、利用者は外気浴時に「自然がいっぱいで、気持ちいいね！」と深呼吸をしている。利用者は職員と一緒に自然に触れながら、ゆっくり楽しく個々の生活リズムに合わせて可能な限り調理や掃除など得意を發揮し、役割を担いつつ、ゆったりとした温かい心安らぐ「我が家」作りをしている。管理者と職員は「家庭的な関わりの中で、利用者の皆さんの気持ちに添って信頼されるケアを提供する」の理念を心に刻み、貫いている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(あね棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の掲示にて共有し実施している。また、理念についての勉強会などで再確認をしている。	理念は事業所内に掲示すると共に、職員のネームプレートの裏にも記載して、意識付けを図っている。また、年度目標を定めて中間と年度末に話し合いをして、より良いケアサービスの実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事の写真の発注やおやつや物の買い物などは近所のコンビニを利用し地域との繋がりを持っている。	地域の高齢化が進み町内会活動は無くなっているが、近くの保育園とは園長と手紙で交流し、今までの関係を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年近隣の保育園より歌やお遊戯の発表の場として当ホームへ来て頂いている。新型コロナ感染拡大防止の為、行き来を控えている状況が続いているがホームでの暮らしがわかるような資料を地域へ発信し、ご意見、ご感想を頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者さまの生活を報告し、行政機関やご家族との情報交換を行っている。	年6回、書面にて開催し、行事实施や日頃の生活振りを写真で紹介した報告書と意見や感想を纏めた議事録を広報誌「優風」、管理者からの手紙、意見や要望などを収集する記入用紙と返信用封筒を一緒に入れて家族、地域包括支援センター、行政の担当者へ送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や業務に関する相談を通じて協力している。	運営規定の変更時には直接出向いて説明したり、メールなどで連絡を密にしている。研修会の情報や案内をもらうなど協力関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者さま本位のケアを実施している為、拘束を行う要素はない。	毎月身体拘束廃止委員会を開催し、年2回の内部勉強会を行って身体拘束をしないケアの徹底を図り、抑圧感のない自由な暮らしを支援している。受診や薬の調整は医療機関と密に連携を図り、些細な事でも相談をし、アドバイスを受けながら適切に行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ご家族および職員間で情報交換を行う事で虐待や虐待と思われる介護をしない事を心掛けている。また、教育委員会で勉強会を開催している。		

高齢者グループホームあねもね

自己評価	外部評価	項目	自己評価(あね棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	相談業務を担う職員を窓口とし、相談があった場合は支援している。状況に応じて研修への参加を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を利用している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主に運営推進会議を利用している。また、ご家族さまとお会いした時やお電話などでご意見・ご要望などが無いかわっている。	家族には2か月ごとに運営推進会議議事録と一緒に意見や要望などを記載する別紙を同封し、利用者からは日々の関わりの中から見つけ出し、それぞれ表出した意見や要望は検討して運営に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を利用している。また、日々のケアの中でも適宜話し合いを行ったり、個別に意見などを聞く機会も設けている。	毎日の申し送り時やミーティングで話し合い、緊急性の高い事案は都度、検討して運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とコミュニケーションを取り、個々の能力を見極めてアドバイスをしている。職場環境の改善も随時行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修への参加、委員会活動などを通し知識を深め、共有していくよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、ズームでの会議などで他のグループホームと情報交換等を行っている。 (道南グループホーム協会Bブロック)		

高齢者グループホームあねもね

自己評価	外部評価	項目	自己評価(あね棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に情報収集を行っている。会話や動作で困っている事がないかを検討、解決し安心な関係作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面談を行い、ご家族並びに利用者さまの生活状況を伺い、どのようなケアを望んでいるのかをケアプランに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に面談を行い、ご家族並びに利用者さまの生活状況を伺い、待機期間がある場合は他のサービスの情報を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室掃除や食事作りなど在宅時と同じような生活場面を作り、同居者のような関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的到手紙などでご家族さまへ近況を報告している。状況によっては都度ご連絡しご相談、ご協力を頂く事もある。情報を共有し、関係構築に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は感染防止の為控えて頂いているが、ご家族と外泊や外出された際に馴染みの場所や馴染みのある方との交流などを図っている。また、ご友人などとの電話や手紙でのやり取りをサポートしている。	感染症対策の為、訪問の理・美容は状況を見ながら行い、時には家族の了解を得ながら職員が散髪や調髪をしている。ドライブのついでに自宅周辺を通り車窓から見て確認している。正月にはお供え餅やしめ縄・門松を飾り、手作りのおみくじで運試しをし、獅子で厄払いをして今までの習慣が途切れない様に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや食事の下ごしらえなどを皆さまで行って頂き、リビングで過ごす時間をなるべく多くとり、入居者さま同士が関わり合える環境を築いている。		

高齢者グループホームあねもね

自己評価	外部評価	項目	自己評価(あね棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話にて困っている事がないかなどを伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族からの聴取や生活歴から反映できるようにしている。	軽度の利用者は「ここで最期まで居たい」と自分の思いを伝えることもある。新たに表出した思いや意向は「介護記録」に記載して全職員で共有し、アセスメントに残している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からの聴取や生活歴から反映できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のサービス提供の中から把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを行い、モニタリングし、ご本人に合ったニーズ、目標に向かうようにケア担当、計画作成担当者、介護支援専門員が現状に合った計画を作成するよう努めている。	モニタリングをし、カンファレンスで意見交換をして、更にユニット全体で検討するなど、話し合いを幾度も繰り返し行い、概ね6か月を目途に計画を見直しているが、新たな課題が見つかった時は検討を加え、その都度現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスシートを活用し介護計画の見直ししたり、日々の申し送りやミーティング、各種委員会活動を通し、情報の提供に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	町内会や近隣の保育園へ広報誌等をお渡ししている。また、包括支援センター主催で地域の代表や薬局、歯科などと一緒にコロナ対策での情報共有や協力体制をとっている。(コロナで一時休止中)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外食レクなどを通じ社会性が衰えないようにしている。感染防止の為、地域のお店からランチに出前を取ったり、ケーキやコーヒーを専門店から調達するなど外食の雰囲気味わって頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは定期的な往診・受診を通じ情報交換を行っている。	協力医療機関による月2回の往診と必要に応じて歯科医の往診がある。専門科を受診する際は職員が同行し、結果を家族に報告している。受診や薬の調整は協力医と密に連携を図り、些細な事でも相談をして、適切なアドバイスを受けている。夜間や緊急時は24時間対応して安心できる医療体制を整えている。	

高齢者グループホームあねもね

自己評価	外部評価	項目	自己評価(あね棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状況を看護職へ報告し、判断を仰ぎながら受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご家族との情報交換、病院からの病状報告を受けながら良好な関係を築いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状についてご家族と共有する際に施設として支援をしている。	契約時に重度化や終末期ケアについて、事業所が対応し得る最大のケアについて、本人と家族に説明している。利用者の状態が変化して入院が必要になった時は管理者が家族に状況を説明し、安心して治療が受けられる様に支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備や研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を通し行っている。また、地域の同じグループホームの中で、災害時の緊急連絡網を作り協力体制を築いている。(道南グループホーム協会Bブロック)	年2回、防災設備業者の協力を得て自動通報装置を作動させて通報手順を確認、避難誘導、緊急搬送訓練、消火器の使い方説明などを行っている。同法人同士で災害時・緊急時の連携が構築され、法人本部に食料などの備蓄品を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さま本位のケアを実践する上で、尊敬の念を抱く事を基本としている。	一人ひとりの人格を尊重し、礼節を重んじたケアに徹している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さま本位のケアを実践する上で、尊敬の念を抱く事を基本としている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さま本位のケアを実践する上で、尊敬の念を抱く事を基本としている。今、何を望んでいるのか利用者さまの想いに沿って行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容、入浴を通し衛生的な身だしなみに努めている。また、日々の生活の中で行事などの時に着る服を選んだりお手伝いをさせて頂いている。		

高齢者グループホームあねもね

自己評価	外部評価	項目	自己評価(あね棟)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々食べたい物の要望などを聞いたり、調理や食事、片付けを一緒に行っている。	利用者の希望を採り入れた献立にしており、毎月一回出前ランチを利用して、食事が楽しくなる様に工夫している。また、調理の一連の作業を職員と一緒にしている。事業所で収穫したミニトマトや枝豆などは食卓の彩りを豊かにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量などを適宜記録している。利用者さまの嚥下状態に合わせ、食事形態の工夫や食べやすい物へ変更し提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。また、夜間の義歯洗浄を行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し排泄パターンの把握をしたり、声の掛け方やタイミングなども工夫し促している。	3割ほどの利用者は排泄が自立しており、入院時からの習慣でポータブルトイレを使用している利用者もいる。声かけは周囲の人に気づかれぬようにさり気なく行い、女性は同性介助を希望することもある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や乳製品などの提供や体操なども行って頂き、予防に努めている。また、温罨法やマッサージなども提供している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の意向に即した入浴を心掛けている。	週に2~3回のペースで午後に入浴している。状況によって清潔保持のため、随時臨機応変に対応している。重度の利用者もゆっくりと湯に浸かれるように、昇降機付きの浴槽に改修している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間にとらわれずに休めるよう心掛けている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示及び看護職員の指導で服薬の知識を深め、情報交換を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人、ご家族から昔楽しかった出来事や催し物の内容を会話の中から情報収集している。			

高齢者グループホームあねもね

自己評価	外部評価	項目	自己評価(あね棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染拡大防止により、外出の制限を行っている為、天候や意向に合わせてホームの周りの自然の中での日光浴や散歩の機会を作り支援している。	同法人が運営する併設の老人保健施設のバスをユニットごとで利用して皆一緒にドライブを楽しみ、写真を撮って毎月ホーム便りと共に家族に送り、また、一人ひとりの思い出のアルバムにも載せている。天気の良い日は事業所周辺を散歩したり、日光浴を兼ねて敷地内の木陰で寛ぐのを日課としている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の状態により行っている。嗜好品の購入など職員が代行し、清算は一緒に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙などご本人、ご家族の希望などで行っている。毎月の広報誌などでも近況をお伝えしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃、整理整頓により衛生的な環境作りに努めている。また、季節ごとに飾りつけを行い、季節感を実感できるように努めている。	和室を備えた居間兼食堂は大きな窓から程よく陽が入り、温度や湿度は高齢者に合わせて適切に管理され、清潔も保たれている。窓からは四季折々に変化する周辺の景色や菜園の手入れをする職員の姿も見られ、孤立感のない造りになっている。お気に入りの場所でゆったりと寛げる様にソファの配置も工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人がリラックス出来る場所を確保出来るように努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、ご本人の馴れ親しんだ物などを持ち込んでくださるようお声掛けしている。	各居室にはクロゼットと洗面台が備え付けられており、約6畳ほどの広さがあるので、以前に遠方の家族が宿泊したこともある。使い慣れた家具やテレビ、思い出の品などを使い勝手よく配置して、ゆったりと寛げる自分の部屋を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理、清掃、洗濯などご本人が行えることは、安全面を考慮しながら一緒に行うよう努めている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171400765		
法人名	特定医療法人 富田病院		
事業所名	高齢者グループホーム あねもね もね棟		
所在地	北海道 函館市 日吉町4丁目7番83号		
自己評価作成日	令和5年1月10日	評価結果市町村受理日	令和5年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご本人様がこれまで行ってこられた事が継続できるように、お手伝いをさせて頂いている。穏やかな生活の中にも役割や生きがいを感じて頂けるよう、職員一同心掛けています。昇降機付き浴槽への改修により、重度の方でも負担がなく安全に浴槽に浸かり心身ともにリラックスして頂いている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvsoyCd=0171400765-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年2月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(もね棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の掲示にて共有し実施している。また、理念についての勉強会などで再確認をしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事の写真の発注やおやつのお買い物などは近所のコンビニを利用し地域との繋がりを持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年近隣の保育園より歌やお遊戯の発表の場として当ホームへ来て頂いている。新型コロナ感染拡大防止の為、行き来を控えている状況が続いているがホームでの暮らしがわかるような資料を地域へ発信し、ご意見、ご感想を頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者さまの生活を報告し、行政機関やご家族との情報交換を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や業務に関する相談を通じて協力している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者さま本位のケアを実施している為、拘束を行う要素はない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ご家族および職員間で情報交換を行う事で虐待や虐待と思われる介護をしない事を心掛けている。また、教育委員会で勉強会を開催している。		

高齢者グループホームあねもね

自己評価	外部評価	項目	自己評価(もね棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	相談業務を担う職員を窓口とし、相談があった場合は支援している。状況に応じて研修への参加を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を利用している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主に運営推進会議を利用している。また、ご家族さまとお会いした時やお電話などでご意見・ご要望などがなく伺っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を利用している。また、日々のケアの中でも適宜話し合いを行ったり、個別に意見などを聞く機会も設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とコミュニケーションを取り、個々の能力を見極めてアドバイスをしている。職場環境の改善も随時行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修への参加、委員会活動などを通し知識を深め、共有していくよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、ズームでの会議などで他のグループホームと情報交換等を行っている。 (道南グループホーム協会Bブロック)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(もね棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に情報収集を行っている。会話や動作で困っている事がないかを検討、解決し安心な関係作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面談を行い、ご家族並びに利用者さまの生活状況を伺い、どのようなケアを望んでいるのかをケアプランに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に面談を行い、ご家族並びに利用者さまの生活状況を伺い、待機期間がある場合は他のサービスの情報を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室掃除や食事作りなど在宅時と同じような生活場面を作り、同居者のような関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に手紙などでご家族さまへ近況を報告している。状況によっては都度ご連絡しご相談、ご協力を頂く事もある。情報を共有し、関係構築に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は感染防止の為控えて頂いているが、ご家族と外泊や外出された際に馴染みの場所や馴染みのある方との交流などを図っている。また、ご友人などの電話や手紙でのやり取りをサポートしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや食事の下ごしらえなどを皆さまで行って頂き、リビングで過ごす時間をなるべく多くとり、入居者さま同士が関わり合える環境を築いている。		

高齢者グループホームあねもね

自己評価	外部評価	項目	自己評価(もね棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話にて困っている事がないかなどを伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族からの聴取や生活歴から反映できるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からの聴取や生活歴から反映できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のサービス提供の中から把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを行い、モニタリングし、ご本人に合ったニーズ、目標に向かうようにケア担当、計画作成担当者、介護支援専門員が現状に合った計画を作成するよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスシートを活用し介護計画の見直ししたり、日々の申し送りやミーティング、各種委員会活動を通し、情報の提供に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	町内会や近隣の保育園へ広報誌等をお渡ししている。また、包括支援センター主催で地域の代表や薬局、歯科などと一緒にコロナ対策での情報共有や協力体制をとっている。(コロナで一時休止中)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外食レクなどを通じ社会性が衰えないようにしている。感染防止の為、地域のお店からランチに出前を取ったり、ケーキやコーヒーを専門店から調達するなど外食の雰囲気味わって頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは定期的な往診・受診を通じ情報交換を行っている。		

高齢者グループホームあねもね

自己評価	外部評価	項目	自己評価(もね棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状況を看護職へ報告し、判断を仰ぎながら受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご家族との情報交換、病院からの病状報告を受けながら良好な関係を築いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状についてご家族と共有する際に施設として支援をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備や研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を通し行っている。また、地域の同じグループホームの中で、災害時の緊急連絡網を作り協力体制を築いている。(道南グループホーム協会Bブロック)		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さま本位のケアを実践する上で、尊敬の念を抱く事を基本としている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さま本位のケアを実践する上で、尊敬の念を抱く事を基本としている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さま本位のケアを実践する上で、尊敬の念を抱く事を基本としている。今、何を望んでいるのか利用者さまの想いに沿って行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容、入浴を通し衛生的な身だしなみに努めている。また、日々の生活の中で行事などの時に着る服を選んだりお手伝いをさせて頂いている。		

高齢者グループホームあねもね

自己評価	外部評価	項目	自己評価(もね棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々食べたい物の要望などを聞いたり、調理や食事、片付けを一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量などを適宜記録している。利用者さまの嚥下状態に合わせ、食事形態の工夫や食べやすい物へ変更し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。また、夜間の義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し排泄パターンの把握をしたり、声の掛け方やタイミングなども工夫し促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や乳製品などの提供や体操なども行って頂き、予防に努めている。また、温罌法やマッサージなども提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の意向に即した入浴を心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間にとらわれずに休めるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示及び看護職員の指導で服薬の知識を深め、情報交換を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人、ご家族から昔楽しかった出来事や催し物の内容を会話の中から情報収集している。		

高齢者グループホームあねもね

自己評価	外部評価	項目	自己評価(もね棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナ感染拡大防止により、外出の制限を行っている為、天候や意向に合わせてホームの周りの自然の中での日光浴や散歩の機会を作り支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の状態により行っている。嗜好品の購入など職員が代行し、清算は一緒に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙などご本人、ご家族の希望などで行っている。毎月の広報誌などでも近況をお伝えしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃、整理整頓により衛生的な環境作りに努めている。また、季節ごとに飾りつけを行い、季節感を実感できるように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人がリラックス出来る場所を確保出来るように努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、ご本人の馴れ親しんだ物などを持ち込んでくださるようお声掛けしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理、清掃、洗濯などご本人が行えることは、安全面を考慮しながら一緒に行うよう努めている。		

目標達成計画

事業所名 高齢者グループホームあねもね

作成日：令和 5年 3月 22日

市町村受理日：令和 5年 3月 30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	34	利用者様の急変時の対応についてベテラン職員でも困難な事例もあった。全職員が落ち着いて対応できるよう見直しが必要である。	利用者様の状況を把握し急変時は職員全員が落ち着いて対応できるようになる。	・施設内での急変時の対応の勉強会を開催する。 ・各自でマニュアルを定期的に見直す。	6カ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。